

【応募用紙】

提出いただいた応募書類（規約・会則等、役員名簿、収支書類を除く）は、活動内容紹介のため、ホームページ上に公開します。

1 応募者概要

団体名	(ふりがな: よこはましりついちがおちゅうがっこう) 横浜市立市ケ尾中学校		
代表者の 役職・氏 名	(ふりがな: たけしたきょうこ) (役職)校長 (氏名)竹下恭子	会員数	(令和2年 11月現在)557 名
ホームペ ージ アドレス	www.edu.city.yokohama.lg.jp	活動開始年月	昭和 平成 29 年 5月
活動範囲 (複数選択 可)	1 学校内 2 学校外 ()		
活動分野 (複数選択 可)	1 川・海・水 2 緑・樹林 3 農業 4 3R 5 環境教育・学習 6 生物多様性 7 地球温暖化対策 8 その他()		
活動の目的やねらい	○自分たちの身近にある課題や世界が抱える課題について一人ひとりが考え、SDGs17のゴールに向けて取り組む。課題解決につながる新しい価値観や考えを生徒会が中心となり、行動を起こしたり広めたりしながら学校全体での取組とする。 ○全学年が海洋プラスチック問題について学び、「自分たちにできること」として、オリジナルマイバッグの企画・作成を通して、一人ひとりの取り組みで世界が変えられるのだと自覚する態度を育てる。		
過去に受けた表彰および受賞年度	(例)横浜□□賞(平成○年度)		

2 最近3年間の主な活動

	活動・取組・イベント等の名称 発行した印刷物等の名称	参加人数、 発行部数 等	詳細内容
平成30年度	生徒会本部役員などを対象に、外部講師による海洋プラスチック問題の勉強会実施	7人 + 担当教員	<ul style="list-style-type: none"> 国際的な取り組みであるSDGsの考え方を生徒たちに広めるために、全校道德の時間を設定し、今地球が抱えている課題は何かを知る手がかりとした。 青年海外協力隊の方によるごみ問題に関する自身の取組について全校生徒に講演をしていただいた。 平成29(2017)年開始当時は生徒会本部役員7人で実施した勉強会を、平成30(2018)年はWWFジャパンの方を講師に招き、生徒会本部役員会と各委員会の委員長で組織された中央委員会のメンバー総勢26人を対象に海洋プラスチック問題の勉強会を開催。

令和元年度	市中から世界を変えよう！～海洋プラスチック問題解決にむけて～ 「市中オリジナルマイバッグ」の完成	全校生徒 配付分 約 550 個	・海洋プラスチック問題について全校で学習をすすめ、中学生である自分たちにできることを考えていく中で、レジ袋の削減を取り上げ、全校生徒が持つ学校オリジナルマイバッグを作成し全校生徒に配付した。
令和2年度	「市中オリジナルマイバッグ」を地域に広報し販売する。 (オリジナルバッグの販売)	地域(自治会町内会が買い取り) 500 個 (累計個数: 1050 個)	・学校運営協議会や町内会等で学校の取組を紹介、賛同いただいた地域の方にマイバッグの販売。合言葉は「市ケ尾のまちから世界を変えよう！」

3 地域との関わり

	活動・取組等の名称	詳細内容
学内の生徒等や教員、保護者との関わり	学校運営協議会	2019、2020 年の学校運営協議会において、マイバッグの取組と地域に広げる活動を周知した。
自治会・町内会との関わり	町内会・自治会で「市中オリジナルマイバッグ」を販売	「市中オリジナルマイバッグ」の取組を町内会で紹介した際、町内会の方の賛同があり、町内会販売分として、500 個買い取っていただいた。
学外団体との関わり		
企業等との関わり		
行政との関わり	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 事業部	助成プロジェクト名 ○第 10 回ユネスコスクール SDGs アシストプロジェクト 「市中から世界を変えよう！ ～海洋プラスチック問題解決にむけて～」 助成期間：2019 年 4 月 1 日～2020 年 2 月 29 日 ○教育研究助成事業 公益財団法人日本教育公務員弘済会
その他、環境以外の分野との関わり		

4 団体の発足経緯、活動を始めたきっかけ

※立ち上げた主体、どのようにして活動に携わる人が増えてきたのか等も合わせ、具体的に記入してください。

本校は持続可能な開発のための教育（ESD=Education for Sustainable Development）を推進するユネスコスクールへの加盟を申請し、2012年に認定され、以後実践を続けている。

また2016年度に市のESD推進校になり、学習や活動の中で毎年さまざまな取組を積んできた。各教科の授業や行事など、中学校で行われるすべての教育活動をESDの視点で捉え直し「生徒たちは持続可能な社会を実現する担い手である」という意識を全教職員がもち、生徒への指導にあたっている。さらに現在は、SDGsの17の目標達成に向けた学習に力を入れて取り組んでいる。

本校の教育理念は『自立貢献』である。生徒一人ひとりが社会とのつながりを大切にしながら、自分の身近にある課題と向き合い、解決のために自ら行動し、社会に貢献できる生徒の育成を目指している。

取組の当初は、国際的な取り組みであるSDGsの考え方を生徒たちに広めるために、全校道徳の時間を設定し、今地球が抱えている課題は何かを知る手がかりとした。

2017年7名の生徒会本部役員定例会議で、海洋プラスチック問題を取り上げたニュース映像や国連が制作した資料映像を視聴し、プラスチックが引き起こしている問題を知ることから始めた。2018年度には生徒会本部役員と各委員会の委員長で組織する中央委員会でも海洋プラスチック問題について話し合い、リーダーたちの意識を高めた。その後も生徒会本部役員の活動は海洋プラスチック問題について全校集会の場やポスターの掲示などに広がり、全校生徒への啓蒙活動にも力を入れた。

これまで生徒会や中央委員会など、学校のリーダーたちの中で深めてきた学習を全校生徒に広めるため、2019年7月、全校学活の時間で海洋プラスチックごみの問題を題材に取り上げ、「自分たちが今すべきこと」に気付かせる時間とした。

その年の10月には本校で行なわれた文化学習発表会で、海洋プラスチック問題を題材とした劇を生徒会本部役員が披露し、全校生徒に問題提起を行った。同じく文化学習発表会の場でマイバッグの完成を披露し、これまでの学習成果を発表した。3年前の7名から始まった取組は全校生徒にとって、一人ひとりが課題を考え、行動を起こすことの大切さを知るきっかけとなった。

5 今までの活動

【活動の目標】

全学年を対象に、海洋プラスチック問題について学び、考えを深める。「自分たちにできること」として、マイバッグの作成を企画・立案し、一人ひとりの取り組みで世界が変えられるのだと自覚する態度を育てることをねらいとした。



※本校玄関入り口に掲示されているSDGs 17のゴールのパネル

【活動と成果】

○マイバッグプロジェクトのはじまり

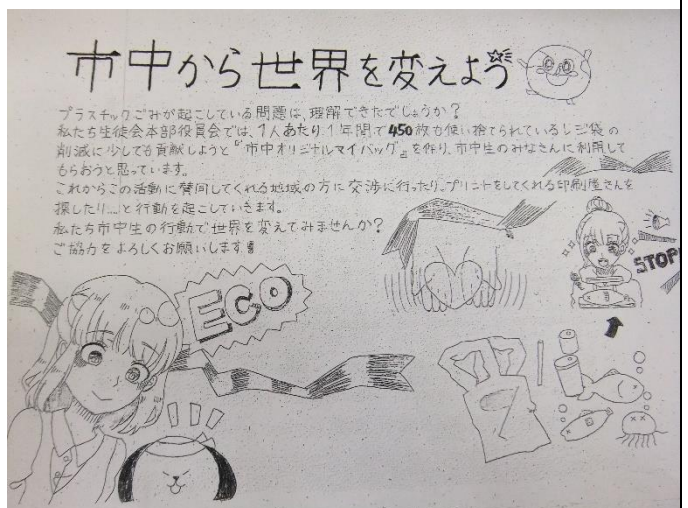
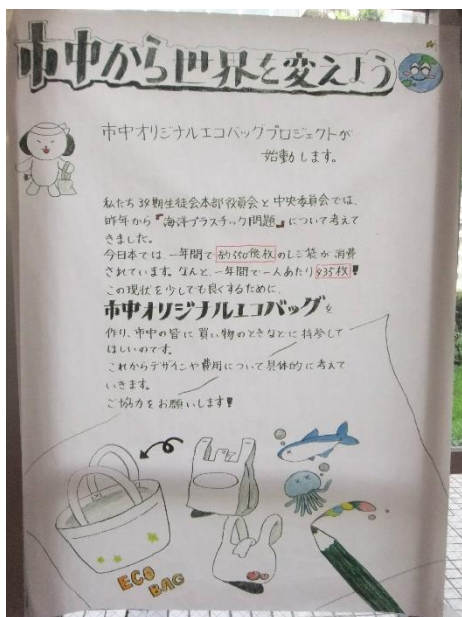
本校が 2017 年度から取り組んでいるテーマは海洋プラスチックごみ問題である。ストローが鼻に刺さったウミガメやプラスチック袋を飲み込み死んだクジラのニュース映像を見たことがきっかけで、中央委員会の生徒らが週 1 回の会議で、プラスチック製品について書かれた新聞記事を読んだり映像を見たりして関心を高めた。話し合いの中で、必要なプラスチック製品もあることや、削減に伴う企業の雇用問題に気付く生徒もいた。一面だけで判断せず、多面的に考える力も培われつつあった。

2019 年 1 月、WWF（世界自然保護基金）ジャパンの専門家を呼び、世界の海で起こっている現状を知った。勉強会では、私たちの身のまわりにあふれているプラスチックがどのくらいの量があるのかを実際に数字で確認し、消費したプラスチックがその後どのように処分されているのかを詳しく知ることができた。これを機に自分たちにできることを考えるようになり、「市中（市ヶ尾中）オリジナルマイバッグプロジェクト」が始まった。

○「市中オリジナルマイバッグ」作成に向けて

SDG s の学習や勉強会を受けての話し合いを進めると同時進行で、生徒会本部役員会では、「市中オリジナルマイバッグ」の作成に向けて動き出した。海洋プラスチック問題に取り組み始めた当初から、プラスチックごみを減らすために「中学生」ができることとして考えたのが「レジ袋の削減」であった。

中学校オリジナルのマイバッグを作成・配付し、全校生徒が買い物に出かけるときに持参することができれば、わずかながら「レジ袋の削減」になるのではないかと考えた。2019 年 7 月には全校学活の時間に、資料映像や新聞記事を題材にしながら、生徒会本部役員が校内放送で呼び掛け、全クラスでプラスチックごみ問題について「自分たちが今すべきこと」を考える時間が持たれた。「レジ袋有料化に関する意識調査（アンケート）」も実施した。そして『市中から世界を変えよう！』を合い言葉に、持ち歩きたくくなるようなデザインを全校生徒に募集し、作成することを決定した。



※「市中オリジナルマイバッグ」プロジェクトの始動を知らせるポスター（左）

海洋プラスチック問題について全校生徒に訴えたお知らせ（右） 全て生徒作成

2019年10月、校内文化学習発表会にて、海洋プラスチック問題を題材とした劇を披露し全校生徒に問題提起を行った。同じく文化学習発表会の場でマイバッグの完成を披露しこれまでの学習成果を発表した。そして全校生徒にマイバッグを配付した。マイバッグ配付1か月後『市中オリジナルマイバッグ』の使用に関する意識調査（アンケート）を行い、マイバッグの使用率や活動の広がりを確認した。

また、2019年度末の学校運営協議会で、この活動を報告したところ、賛同してくださった地域の自治会がマイバッグを500個買い取ってくださり、それを元に増産することも決まった。

○成果

① 生徒にとっての学びの変容

自分たちの生活に欠かせない物となっているプラスチック製品が、重大な環境問題を引き起こしていることを学び、身近な問題であることを認識することができた。プラスチック製品の利用を控え、レジ袋を受け取らないなど、自分たちにできる行動を積極的に行えるようになった。

《生徒たちの声》

- ・「海洋プラスチック問題」がどのようなものなのか、学活や講演会をとおしてたくさん知ることができた。自分にできることは何かを考えていきたい。
- ・オリジナルマイバッグをぜひ使って、レジ袋の削減に貢献したい。
- ・「海洋プラスチック問題」をどうすれば全校生に伝わるのか、考えることは難しかったけれど、とてもやりがいがあった。
- ・地域の大人の方たちの前で、自分たちの取組を発表するのは緊張したけど、自分たち中学生だけでは気づけない視点に気づけたことが発見だった。

② 教師や保護者、地域、関係機関等に対するインパクト

文化学習発表会での完成披露により広く周知することができた。

生徒へ一斉配付することで、保護者や地域への啓発につながった。

「市中オリジナルマイバッグ」の取組を町内会で紹介した際、町内会の方の賛同があり、資金として町内会に販売する分として、500個分を出資していただくことに結びついた。

※エコバッグの素材ポリエステル

タテ34cm ヨコ30.5cm

約5kg分の荷物が収納可能。

※生徒へ一斉配付したものは青色、地域へ販売するものは桃色とし差別化を図った。

※中央は生徒公募により決定したエコバッグのデザイン

市ヶ尾中のオリジナルキャラクターと海洋生物を描いている。

どなたにも使ってもらえるように

「市ヶ尾中」という文字を敢えて入れないことにした。



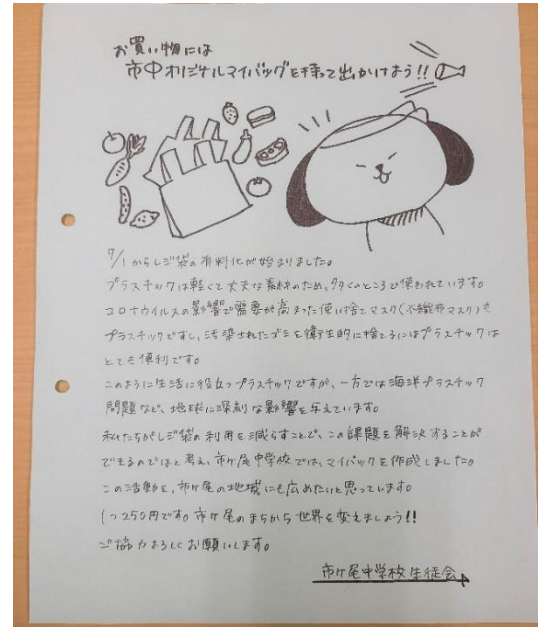
6 今後の活動方針

※次年度以降の目標や、活動継続のためにどう引き継いでいくのかも含めて具体的に記入してください。

※現在活動休止中の場合でも、今後の活動の見込みや方針について御記入ください。

○地域に広める活動を

2020年7月町内会での広報用に生徒が作成したチラシ



今年度は、この活動を地域に、市ケ尾のまちに広めようと生徒会本部役員が中心になり活動を進めている。

7月中に本部役員が地域の町内会の会合に参加し、これまでの市ケ尾中での取組と今世界が抱えている課題、特に「プラスチック問題」について説明を行った。「市中オリジナルマイバッグ」を市ケ尾のまちの人々が利用することで、「プラスチック問題」の解決に向けて、まちの皆さんの意識を少しでも高めることができたという思いで、プレゼンを行い、自分たちのアイデアが形となったオリジナルバッグを通して「身近なところから知ってほしい。」という思いを伝えることができた。

折しも7月からレジ袋の有料化がはじまり、会合に参加された方々が、普段からエコバッグを持ち歩いている人が多いことや、ゴミ処理問題について、高い意識を持っている方が多いことも知ることができた。地域の方から質問も多く出され、まちの人々が温かく生徒会の活動を見守ってくださっていることを実感した。

2020年12月1日現在、令和2年度に町内会が買い取ってくださった追加発注の500個のマイバッグのうち、450個ものバッグが売れており、市ケ尾のスーパーマーケットでも見かけるようになった。

マイバッグを作成した理念は次の生徒会本部役員に受け継がれている。今後は学校近くの駅などで路上販売が可能か否かなど、検討を始めている。

まずは12月中旬に、代替わりした生徒会本部役員が、青葉区役所が主催する環境講演会（環境問題やSDGsについて親子で学べるイベント）において、「市中オリジナルマイバッグ」の広報と、販売を行う予定である。

7 審査にあたり、最も注目してもらいたい取組、PRポイント

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、第28回は、審査会場でのプレゼンテーション（自己アピール）を実施しません。審査の参考とするため、最も注目してもらいたい取組・PRポイントについて具体的に記入してください。

【例】

- 最も注目してもらい・評価してもらいたい取組
- 一番成果があがっていると思う取組
- 他の団体と異なる自分たちの強み・独自性
- 取組の過程で、どのような努力・苦労があったか など

本校が海洋プラスチック問題の解決に向けて取り組みを始めてから3年がたっているが、その活動は代々引き継がれ、さらに活動の幅を広げている。海洋プラスチック問題の解決には、世界中の一人ひとりが、その解決に向けて意識を高め、行動し続けていくことが必要である。本校の生徒たちは、3年前に初めて、この海洋プラスチック問題を知り、課題解決に向き合ってきた。最初にその課題意識をもった生徒たちは、「マイバッグ」の完成を待たずに卒業をしているが、その思いを後輩たちが引き継ぎ、この活動を継続させていくことの大切さを理解しながら一歩ずつ前へと進めてきた。今年度は、自分たちの暮らす「市ケ尾のまち」にも同じ課題意識をもって、学校と地域が一体となって解決に取り組めるよう活動を始めた。自分たちとは立場の違う大人の方々の前で、代々受け継いできた取組をわかりやすく伝えるための準備や手立てを考え実践することで、教室の学習だけでは学べないことを学ぶことができた。

また、「マイバッグプロジェクト」を立ち上げたことで、生徒たちは自分たちの身近なところで起きている、さまざまな課題にも目を向けることができるようになった。災害時には募金活動を企画し実行したり、学校生活の中にあるジェンダーの問題などにも考えを深めたりしている。

これらの活動の中心は、学校のリーダーである7名の生徒会本部役員であるが、本校は全校生徒が「SDGsの17の目標を達成することが、持続可能な地球のためには必要なことである。」ということを理解している。

このことが、これからの地球のあり方を担っていく子どもたちにとっては大きな強みであると考えている。

「マイバッグプロジェクト」を立ち上げ遂行していくことで、生徒や保護者の、海洋プラスチック問題解決に向けた、日常生活の中での行動変容が多く見られている。「マイバッグ」を作成・配付したことは、一つのきっかけにすぎない。今後も継続的な活動を続けていきたい。